

## 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

### 再生普及行動計画ワーキンググループ(第9回) 議事要旨

平成18年4月25日(火) 18:30～20:20

釧路地方合同庁舎4階 共用第3会議室

#### 【出席者(敬称略)】

##### 再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

###### <個人>

- ・ 清水信彦
- ・ 永瀬知志

###### <団体(出席者)>

- ・ 釧路湿原ボランティアレンジャーの会(近藤一燈美)
- ・ 釧路シャケの会、釧路市民活動センター わっと(成ヶ澤 茂)

###### <関係行政機関(出席者)>

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所  
(所長/星野一昭、次長/吉中厚裕、国立公園・保全整備課/川淵義昭)
- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発局釧路開発建設部(治水課/能代靖己、稲垣乃吾)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター(所長/藤村 武)
- ・ 北海道釧路支庁(地域政策部環境生活課自然環境係/後藤達彦、大野美枝)
- ・ 北海道教育庁釧路教育局(社会教育係/及川 明)
- ・ 釧路市(環境政策課/福田芳弘)
- ・ 釧路町(生活環境課/佐々木俊司)
- ・ 鶴居村(振興観光課/高松一哉)

##### 再生普及小委員会

###### <個人(所属)>

- ・ 高橋忠一(北海道教育大学釧路校 助教授)

##### 再生普及行動計画ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原保護官事務所(山本 豊)
- ・ 財団法人北海道環境財団(久保田学、無藤雅美)

#### 【議事概要】

事務局 第9回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「WG」と表記)を開催する。

WGのメンバーだった滝川さんが2月にご逝去された。心からお悔やみ申し上げると共に、生前の釧路湿原の自然再生へのご功績に感謝申し上げます。

またWG事務局が内田から無藤に交代した。(無藤を紹介)これからいろいろと連絡を取らせていただくので、よろしくをお願いします。

本日は、新庄座長が急病にて入院されたため、再生普及小委員会の高橋小委員長に進行をお願いする。

(以下、高橋小委員長により進行)

#### 議事1 2005年度具体的取組み(ワンダグリンド・プロジェクト2005)報告書(案)について

小委員長 本日は、座長に代わって進行させていただく。2時間の予定だが、まず2005年度の取組みについて報告させていただく。2005年度の取組み状況は事務局でとりまとめた資料と一覧表を各机に3部ずつ配布してあるのでご参照いただきたい。今日はこれについて議論し、次回の再生普及小委員会で承認のうえ、印刷して公表する予定である。内容について事務局から説明を。

(資料1について説明)

小委員長 まず、資料1の報告書のイメージについて検討したい。例えば、お手元の報告内容の冊子の2ページ目のFMくしろを資料1のような形のレイアウトでまとめたいと思うがいかがか。

委員 カラーで印刷するのか。

事務局 本編はモノクロ印刷となる。写真はもっと鮮明に出る。ホームページではカラーのPDFで公開したい。

委員 フォント等はまたこれから変えられるか。「主催者」の標記が少々気になるが。

事務局 変えられる。主催者は修正する。また、ワンダグリンドのマークは、昨年つくったロゴに入れ替える。

委員 「取組み概要」としてしか書いていないが。

事務局 と続けて掲載する事になる。これはあくまでもイメージとお考えいただきたい。

委員 それぞれ1ページでおさまるのか。簡略化してなるべく短くし、読みやすくした方がよく、なるべく1ページにおさめた方がいい。

事務局 2ページになるものもある。もともと3~4ページで報告いただいたものもあり、これでもかなり圧縮した。

小委員長 今回は初めてだが、今後1ページでおさまるような報告にできればよい。編集方針についてご意見があれば、後からでも事務局にお届けいただきたい。その時点で改良できる点は取り入れていくが、概ねこのような方針で小委員会に提出してよろしいか。

(一同了承)

小委員長 それでは、報告についてもう一つお諮りしたいことがあるので、事務局から説明を。

(資料2について説明)

小委員長 先ほどの報告書の印刷イメージには「成果」と書いてある。もともとの報告は「評価」として書くことを予定していたが、実際に報告をまとめようとすると、いろいろ難しい点があることがわかってきた。それぞれからの報告には、参加者等の「数」や成果を書いてあるもの、反省を書いてあるものなど、そもそも記述方法が一樣ではなく、評価の物差しもない。いろいろ考えると、事実としての数字と成果及び次の取り組みにつながる前向きな反省点等を併記することでどうか、との考えに至っている。

委員 やってよかったところ(反省点)、悪かったところを1点ずつは挙げた方がいいように思う。よかったところをあげるだけでは不足では。

事務局 そこは評価としてではなく主催者の感想として書かれている。

小委員長 客観的な評価は難しい。主催者の感想と重なる部分があるので、そこから読みとれるとよい。この部分は大事なことだが、現時点では主催者の感想と成果の併記とすることでよいと思う。大学などでも成果の評価が求められており、自己評価をする手法が確立されておらず、戸惑いながら手探りで進めている状況。

事務局 まずは初年度、これから2年目という段階なので、できるだけたくさんの人に入っていただいて前向きな評価をしていけばいいが、5年間の行動計画であり、何らかの評価は必要となってくる。

小委員長 そのことを踏まえつつ、とりあえず2005年度の報告はこのようなやりかたで小委員会に提出していきたいと思うがどうか。

(一同了承)

小委員長 細部についてリクエストがあれば、お届けいただきたい。

## 議事2 2006年度具体的取り組み(ワンダグリンド・プロジェクト2006)応募結果について

小委員長 次に、本年3月20日締め切りで募集した2006年度の取り組みについて見ていきたい。

(資料3について説明)

事務局 前年からの継続の取り組みが多いが、環境コンサルタント株式会社、株式会社北都、環境省釧路自然環境事務所、無藤雅美から新規の取り組みが出されている。また、協力の意思表示については、今回は10の項目とは別に3件をまとめた。

小委員長 今年度は協力案件1件を含めて、新たに7件の取組みが応募されている。「湿原と名の付くものを食べに行く」など、簡単にできるユニークなものも応募されている。昨年同様年度途中での応募も可能なので、「こんな取組みでもいいんだ」というように多くの人に感じてもらえるよう広めていけるとよい。

委員 去年より少ない。また、これまでの反省で、行事の期日が重なり、その調整ができなかった、という事がある。それぞれの期日がわかっていれば、行事を一緒にやるなど、効果的な展開ができる。

小委員長 おっしゃるとおりであり、これまでこの場でも話題になった。もう一項目追加して、粗々の予定を記載することは可能か。

事務局 可能です。

小委員長 可能であれば、大まかな行事日程等を一覧に掲載してほしい。それが可能ならば、ワンダグリンダ・プロジェクトのカレンダーをつくる事も可能となる。

委員 再掲されているものが多く、少々見づらい気がする。

委員 一覧表の作り方は2通りある。現案は行動計画の10項目で整理しているが、団体別の取組み一覧もあるとよい。

事務局 団体別の整理もしてあるので、用意できる。

小委員長 WG自体が企画して、ここで挙げられている取組みに参加してみることもよい。折りを見てそうしたことも考えてみては。

事務局 取組み別・主催者別の2組つくった方がいいか？

委員 参加者側から見ると、主催者別の方がいい。

事務局 行動計画自体は10項目に分かれているので、これはこれで必要。それとは別に主催者別のものを作成したい。

委員 昨年の実施者で今年応募していないところがあるが、その理由として考えられることはあるか。

事務局 前回は年度に入ってから募集してとりまとめた。今回は団体内で新年度の事業の意思決定ができていないところもあると見ている。前回は24団体48件でスタートして、最終的に35団体76件にまでふくらんだ。今回も現在は22団体40件でスタートするが、今後増えていくと思う。

委員 このWGでも前年度内に募集することの是非の議論があったが、その影響がでた形とを感じる。また、ここに応募することの利点があまり感じられないことが課題。応募してここに掲載されても、それが一般市民から見えにくいことと、応募期間終了後に応募するとホームページになかなか反映されず、参加の利点を実感しにくい。

小委員長 重要な指摘である。事務局からサポートを検討する余地がある。

事務局 ホームページはできるかぎり早めに更新したいが、更新に別の団体の作業も要しており、なかなか迅速にできなかった。

- 小委員長 ホームページの更新頻度は。
- 事務局 これまでのところ月1回程度。
- 小委員長 月1回の更新は、このような取り組みとしては普通だが、何か参加を動機づけることを考えて見ては。
- 事務局 新庄座長との話では、ロゴを活かすこと、例えばシールや缶バッジをつくる事などのアイデアがでた。ロゴを使う事に誇りを持てるようにできるとよい。
- 事務局 このプロジェクトに参加するメリットはいろいろな観点から考えていきたい。行事の案内にロゴを使うことや、ホームページでのカレンダーへの掲載、報告書に掲載して広く配布されることなどの直接的なメリットをつくっていきるとよい。また、多様な取り組みの自然再生をキーワードとした連携をこのワーキングがどうサポートしていったらよいかも考える必要があり、ワーキングのみなさまのアイデアがあればお聞きしたい。
- 小委員長 去年のWGでも出たが、実施者がそれぞれ孤立している状況から、つながっていくきっかけに使えるとよい。
- 委員 缶バッジは実施者に渡すのか、実施者が配るのか。
- 小委員長 いろいろな使いかた、考え方ができる。試行的に今年からできるとよい。
- 委員 行事のときに使えるロゴマークの旗かなにかあるとよい。釧路湿原国立公園連絡協議会で著作権を持っているバッジも使える。4色使っているので値は張るが、バッジは観光客も興味を持ってくれる。
- 事務局 釧路湿原国立公園連絡協議会のマークは国立公園内が中心となるが、ワンダグリンダ・プロジェクトは道外の取組みでも使える。このロゴを湿原そばの店など色々なところに掲げて、「なんだろう」と思わせることで関心を広げていけるといい。
- 小委員長 今すぐどれだけできるかという問題はあるが、少なくともこれを広げていくことを考えていきたい。
- 小委員長 今回は22団体40件ということだが、2005年度の取組みの最終報告実績は27団体54件だった。予定どおりに進まなかったところもあるが、毎年少しずつ広げていけるよう、働きかけは必要だと思うので、去年参加した人にも引き続き声をかけていきたい。正統派の取組みに限らず、生活の中で湿原の保全につながるような取組みも増やしていきたい。
- 事務局 5月の再生普及小委で承認後に公表するが、そのときがあらためて追加募集するいい機会になる。また、報告書を作成して公表する際にも追加募集すること等、増やしていくようにしたい。
- 小委員長 郵送料は200円くらいか。1000部が足りなくなるくらい配りたい。
- 事務局 取組み時期が決定したら、なるべく早めに事務局にご一報願いたい。

## その他

- 小委員長 今後のスケジュールについて事務局から説明を。  
(資料4について説明)
- 小委員長 昨年からの経緯を考えると概ねこのようなスケジュールになると思う。但し、先ほど指摘があったように、募集を前年度内に行うことについては、検討の余地がある。次回は、半年後の開催になるが、先ほど提案したように、年度途中でWGとしてどこかの行事への参加を呼びかけることについても考えてみたい。
- 事務局 年度明けにまたがった募集ができるとよいが、契約手続き上の問題から、必ずしもそのように事業運営できない可能性があることをご承知おきいただきたい。
- 小委員長 その点も踏まえ、当面次回の募集スケジュールも年度内を見込みたい。
- 委員 事務局で放送局等と協力して、夏休みに鳥の専門家を集めて、子供向けに3日間相談室を開くなどのことができないか。報告だけではなく、事務局も事業をやってみては。湿原の専門家100人のリストがあるとも聞く。それも活用しては。
- 委員 環境教育WG(教育局)で作成、学校等には配布しているはず。
- 小委員長 可能であればどなたか音頭をとってそうした取組みができるとよい。
- 事務局 HPだけではなく、メディアにも是非ご協力いただきながら進めていきたい。
- 小委員長 その他、この機会になにかあればご発言を。  
(出席者名簿の訂正について連絡)
- 事務局 以上をもって第9回WGを終了する。本日のご意見を加味して5月11日の小委員会に提出したい。